

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 30 年度第 2 回高松市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成 31 年 2 月 13 日(水) 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
開 催 場 所	高松市防災合同庁舎 501 会議室
議 題	(1)食品ロス対策等推進事業の実施について (2)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	9 人 生嶋暹、今村幸一、栗島由紀子、中澤悦子、古川尚幸、古川由美、細谷芳久、松山千恵子、宮武寛
欠席委員	4 人
傍 聴 者	0 人 (定員 10 人)
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課 (Tel.839-2388)

審議経過及び審議結果

(1) 食品ロス対策等推進事業の実施について

(事務局説明)

(委員)

食品ロスは、環境の面からいえばごみが増えることであるが、手つかず食品等を捨てることはお金を捨てることでもあると思う。食品ロスを金額面で換算できないか。

(会長)

食品ロス実態調査で、南部クリーンセンターに行きごみを見たが、ごみから換算するのは、難しいと思う。モニター調査で、消費者に協力していただければ、金額換算ができるかもしれない。

(事務局)

出されたごみから金額を試算するのは難しいが、モニター調査については、検討してみたい。市は県と一緒に「スマート・フードライフ」に取り組んでいる。食品ロスを減らすことは、環境にかしこく、身体にかしこく、家計にかしこいということを強調していきたい。

(委員)

金額表示は、説得力があり非常に重要なものなので、どういうデータを採用するかなど前提をきちんとしておかなければならない。

(委員)

何割が廃棄されているというデータがあればよいと思う。それが分かれば、食費からどのくらいの金額が捨てられているのか自分で考えることができる。

(委員)

一回やれば、持続的に節減の効果が表れていくような施策を考えていただきたい。家庭系については、食品を購入する今の流通のシステムから解決の糸口が見つけられないか。事業系については、構造的に食品ロスを発生させる性質を内在していると思う。

(事務局)

今回の調査の、調理くず、食べ残し、手つかず食品の量や割合については、現在集計中だが、取りまとめをして広報たかまつで啓発をしていく予定である。金額での表示については、できるか否か調査の上、できない場合は審議会でその旨をお伝えする。食品ロス対策の施策については、「フードドライブ」という施策を新たに打ち出し食品ロスを減らしていこうと考えている。

(会長)

人によって響くものが違うので、金額、重さ、割合など色々な形で知らせていただければと思う。一回の施策で解決することがあるのかもしれないが、食品ロスの問題は長期間にわたり、地道にやらないと解決は難しい。今、はやりで食品ロスが注目されているところがあるので、継続してやらなければならないことを意識しておいていただきたい。

(事務局)

今後も継続して削減に取り組んでいきたい。

(委員)

一回の施策で解決するというのは、例えば流通の仕組を工夫して一回その仕組ができれば、自動的に効果が表れるのではないかという考えである。そういう仕組はいくつでもあると思うので知恵を絞って、たくさん考えていかなければならない。

(委員)

事業をやっていると宴会が多いが、ほぼ食べない。始まってから終わるまで、ずっと誰かが、入れ替わり立ち替わり挨拶に行くから、市長や県知事も食べられない。市長が出席する際には、食品ロス削減に協力してくださいと最初の挨拶でお願いするなど先導を切って始めてはどうか。

(事務局)

3010運動が、まだ行き届いていないので、今後も周知啓発を行いたいと考えている。事業者を対象としたアンケート調査で、「3分の1ルール」などに起因した食品ロスの発生状況などの調査を行い、食品ロスが出ないような取組を周知啓発していきたいと考えている。

(委員)

食品ロスの問題をごみ処理の観点からみているので、仕方がないと思うが、本来は、食料の配分の問題だろうと思う。ごみ処理の部分だけでとらえたのでは、解決できないと思う。

(委員)

主婦目線だが、食品ロスについては、家庭で料理を作らないのも一つの原因かと思う。最近、恵方巻の問題があったが、うちは恵方巻を作り、全部使い切った。なるべ

く冷蔵庫の中を確認して、買い物に行っている。市のチラシ「STOP！食品ロス」はとても参考になる。皆に送ったのか。

(事務局)

昨年10月に配布した。

(委員)

冷蔵庫に、食べ残しありませんかというステッカーを、一つの家到一个貼ってもらうなど、ぱっと目につき分かりやすいアピールの仕方がよいと思う。また人間、食が楽しみなので、会長さんの学生達のイベントのような食の楽しさも含んだ企画を広報誌に載せてはどうだろうか。

(委員)

H31年度における取組予定で、冷蔵庫収納術講習会があるが、CD化してほしい。講習会に参加する時間がない人も、時間がある時に見ることができる。有名な講師を呼ぶのに、お金がかかるのではないかと。CDは安く作れるのでCDを作してほしい。

(事務局)

有名な講師の方のほうが、皆が来てくれるだろうと考えている。ぜひ聞きたいといっていただけなのは、非常にありがたいが、著作権等の問題もあるのでCD化できるかどうかはただちにお約束できない。映像を利用した広報手段としては、ケーブルテレビやインターネット動画などを活用している。また、環境学習の一環として、要望に応じ出前講座を行っている。

(委員)

講習会は単発のものである。冷蔵庫の収納だけでなく、野菜の冷凍保存による活用術等も出前講座をお願いできたらと思う。

(委員)

CDを作成して、いつでも興味がある人は貸し出しますというふうにしておけば、地域の会などでも使いやすいし見やすい。

(委員)

市のホームページで、食品ロス対策として究極の食品ロス対策術みたいなものがあればホームページにアクセスする人も増えるかもしれない。

(事務局)

ホームページのテーマについては適宜見直しをさせていただきたい。

(2) その他（プラスチックごみ削減対策）

(事務局説明)

(委員)

何年か前に、レジ袋の無料配布をやめましょうという取組を高松市もしていたと思うが、今はあまり聞かない。プラスチックごみの問題では、まずレジ袋無料配布を中止するべきではないかと思う。

(事務局)

レジ袋の削減について協定を結んでいるところもあるが、レジ袋有償配布というのは現実的に難しい状況である。

(委員)

街中にインバウンドが増えている。観光客にレジ袋が有料ということはなかなか言いにくい。

(委員)

プラスチック問題、いったい何を問題ととらえるべきなのか。例えば不法投棄されるプラスチックにより川や海が汚染されることなのか。

(事務局)

プラスチックは、石油由来の資源を使い捨てとして燃やすため、資源の制約上の問題がある。そして海ごみの問題。またプラスチックを燃やすことで、CO₂が排出されるので、地球温暖化の問題もある。それらへの対策として、プラスチックの使用を控え、あるいは資源として循環させるというのが、国の大きな狙いと理解している。

(委員)

一体我々は何に取り組めばいいのか。バイオプラスチックは、昔から技術は日本にもあるが実用化されていない。コストの問題が非常に大きいと思う。また、ペットボトルをリサイクルするのと、燃やすのでは、リサイクルする方が環境に負荷がかかっていると思う。見た目だけで環境にやさしいとか資源循環に貢献していると言いながら、環境に負荷を与えているようなことをしていたら、どうなのかと思う。プラスチック問題の根本的な問題をきちんと知っておかなければならない。

(事務局)

クリーン作戦で、ごみ拾いに行くが、海岸のところに打ち上げられた多量のプラスチックごみを見ると、それらを減らしていかなければと思う。またプラスチックの使用を控えるということは、市としても取り組んでいかなければならない課題と認識し、今後の方針を考えさせていただく。

(会長)

指摘のあった問題の本質については、今すぐにここで答えるというよりも、市の方で整理した上で情報発信していただければと思う。

(副会長)

クリーン作戦をしているが、委員さんも参加していただいて、不法投棄等の状況を知ってもらいたい。啓発としては、いかにみんなが見るかという視点で、CDを作るなど考えてほしい。

(委員)

プラスチックごみ削減対策の資料について、もう少し分かりやすい資料となるよう工夫していただきたい。

(2)その他（消費税及び地方消費税の税率引き上げに伴う一般廃棄物処理手数料の改定について）

(事務局説明)

(委員)

南部クリーンセンターへの缶・びん・ペットボトルの搬入で、100kg を超え 20kg までごとが、230 円から 240 円へと改定となっているが、改定率が大きすぎるのではない

のか。

(事務局)

この部分については、平成 26 年の消費税率 5% から 8% への変更時に計算をしたが、端数処理の関係で 5% 時の料金そのまま改定がなかった。今回、5% 時の料金からの変更ということで、額が多めに出ている。

(委員)

手数料は外税で書いているのか。

(事務局)

内税である。

(委員)

今回結果的に変わらなかったところがあるが、そこは仮に次回、消費税が上がったときは、8% ベースの数字として扱うということか。

(事務局)

はい。

(会長)

その他になにかあるか。

(副会長)

6 月 30 日に旧塩屋町小学校で環境フェアを開催するので、ぜひ見に来てほしい。

(会長)

環境フェアに昨年呼んでいただき、学生たちも子ども向け工作のワークショップを行った。ぜひ、皆さんも行ってみたい。

(委員)

消費税が上がったから料金が上がりますということを納得してくれるお客さんはほとんどいない。そういう中で商売をやっているということは理解しておいていただきたい。

以上